



QRコードを読み取り、令和4年6月定例会を選択すると一般質問が視聴できます。



うえまつ けんいち
植松 健一
(至誠)

狭隘道路の解消に向けて

問 建築基準法のセットバックでなくても土地所有者に奨励金を出すなどして、自主後退を促進してはどうか。

部長 自主後退を促すために奨励金を出すことは、路線全体を拡幅する方法の一つと思われるが、認定市道沿いの土地所有者からの財産寄附の取扱いなどから、従来どおり土地所有者からの寄附行為によって対応したいと考えている。

問 道路拡幅ができるように率先して提供してくださる土地を、将来の拡幅のために寄附として受け付ける制度を作ることができないか。

部長 寄附していただいた土地の形状によっては道路を整備するまでの間、維持管理費がかかることが予想される。工事施工の見通しが立たない場合は、寄附を受け付けることはできない

ため制度の創設は難しい。

放課後児童クラブへの指導監督について

問 放課後児童クラブの運営を委託している市の立場及び責任は。

部長 事業の運営を委託している以上、受託者である育成会に対し、適正に事業の運営をさせる責任があり、法令遵守はもちろんのこと、委託契約書において委託費の使途を指定し、委託業務の運営及び経理についての報告を義務づけている。

問 育成会及び指導員に対しての監督及び指導について。

部長 市は放課後児童健全育成事業を行う事業主体として、また委託者として、育成会に対し監督指導を行うことで、本事業の安定した運営ができるよう努めている。

市長 市からは民間の方々に、公設民営でお任せしてある。一事例についてはしっかりと調査し報告を聞いて、勧告すべきものはすべきという気持ちである。



ふかさわ りゅうすけ
深澤 竜介
(無会派)

急激な少子化、女性に選択される地域づくり

問 富士宮市の出生数の推移はいかがか。

部長 2000～2004年の平均は、1,237人。2005～2009年の平均は、1,192人。2010～2014年の平均は、1,086人。2015～2019年の平均は、905人。2020年は719人。2021年は697人。

問 急激な少子化の一つの原因に、若い女性の市外流出があり、その結果、25歳から29歳は男性3,362人女性2,604人と、758人も男女の人数が開いている。女性の市外への流出の要因は、若い女性が希望する職種がないことも考えられる。企業誘致も、製造業一辺倒からソフト的な産業誘致に、転換すべきと考えるがいかがか。

部長 市全体のバランスを見て行っていきたい。

意見 先日公表された「男女共同参画白書」では、「もはや昭和ではない」と書かれている。行政・民間企業・地域一丸となって、旧来の固定観念を捨て、男女格差をなくして、女性に選択される地域づくりを行わないと、人口減少が続く。

攻めの富士宮市立病院経営の提案

問 医業収益は、各種点数をあげることで、増加させることができる。状況はいかがか。

部長 夜間に看護補助者を配置で、年間約7500万円、感染症対策向上加算1などの取得で、2,300万円、救急医療係数上昇で6,200万円等々である。

中学校の部活動について

問 各スポーツ団体との打ち合わせを早急に行うべきと考えるがいかがか。

教育長 国や県から具体的な道筋が示されていないため、行っていない。

意見 県内で積極的に進めている市町がある。子どもが希望を持てる部活動にしてほしい。